

メガソーラー及び大規模風力による開発問題への 法律・条例による対応について

現在、全国各地において、1メガワット以上の出力を持つ大規模太陽光発電所（いわゆるメガソーラー）及び大規模風力発電所の建設が多数計画されています。これらの施設が山林等で建設されることに伴い、自然生態系や景観の破壊、山林の崩落等の災害、地域住民の健康被害、及び生活環境への被害等の発生が懸念されています。また、大規模風力発電から発生する低周波音による健康への悪影響も懸念されています。

以上の各問題への対策として、近年、メガソーラー等に関する開発規制条例を制定する自治体が増えてきています。

本シンポジウムでは、メガソーラー及び大規模風力発電所による開発が地域環境の破壊や災害発生の危険を生じさせている場合に、現時点で法律に基づいていかなる対応が行えるのか、また法律だけでは十分な対応ができない場合に、地域の状況に応じて、ゾーニングも含めてどのような条例を制定して対応することが必要かについて議論を行います。また、それにより、地域環境に悪影響を与えるのではなく、地域に資する形で再生可能エネルギー発電が推進されるようにするための方策についても検討します。

日 時：2025年1月29日（水）11時～16時

場 所：弁護士会館2階クレオB及びZoomによるハイブリッド開催

申込方法：下記URL又は二次元コードから1月24日（金）までにお申し込みください。

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/megasolarsymp/apply/>

※参加方法等は、開催日が近づきましたら、申込みされた方宛てにメールでご案内いたします。



プログラム(予定)

参加無料／事前申込制 ＊どなたでもご参加いただけます

基調講演 村山武彦氏（東京科学大学環境・社会理工学院教授）

内容： 再エネ事業に関する地域住民との合意形成について

報告1 島谷幸宏氏（熊本県立大学特別教授、地域共創拠点運営機構長）

内容： 再エネ事業による防災危険性への対処

報告2 小泉英康氏（新潟市環境部環境政策課長）

内容： 新潟市における太陽光発電及び陸上風力発電に係るゾーニングについて

報告3 風力だめーじサポートの会（※録画上映）

内容： 風力発電の騒音・低周波音による被害の現状について

報告4 小島智史（弁護士/日弁連公害対策・環境保全委員会委員）

内容： 再エネ事業に関する林地開発許可・保安林解除の全国状況、及び再エネ開発規制に関する最近の法改正と課題について

パネルディスカッション

「地域環境と防災に悪影響を与えることを防止し、地域に資する形で再生可能エネルギー発電が推進されるための法律・条例による対応について」

パネリスト：

人見剛氏（早稲田大学大学院法務研究科教授）

島谷幸宏氏（熊本県立大学特別教授、地域共創拠点運営機構長）

小高裕一氏（那須塩原市環境戦略部カーボンニュートラル課長）

小島延夫（弁護士/日弁連公害対策・環境保全委員会委員）

コーディネーター：

室谷悠子（弁護士/日弁連公害対策・環境保全委員会特別委嘱委員）

メガソーラー及び大規模風力による開発問題への 法律・条例による対応について

■個人情報取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、日本弁護士連合会の個人情報保護方針に従い厳重に管理し、本シンポジウムの運営のために利用します。

また、この個人情報に基づき、日本弁護士連合会又は日本弁護士連合会が委託した第三者から、シンポジウム等のイベントの開催案内、書籍のご案内その他当連合会が有益であると判断する情報をご案内させていただくことがあるほか、個人情報は、統計的に処理・分析し、その結果を個人が特定されないよう統計情報として公表することがあります。